



**みなと再生プロジェクト  
「いまばり海の駅」ワークショップ しおり**

平成25年8月23日～25日 愛媛県今治市

## ■ 「海の駅」を考えるWSの主旨

人口 17 万人の今治市は四国第 5 の都市であり、造船、タオルなどで知られた都市であります。瀬戸内の交通の要衝として長い歴史を持ち、島嶼部の来島・能島を居城とした村上水軍は白村江の戦い、壇ノ浦の戦い、信長との大阪湾との戦いなど、日本史の各年代にその武勇伝を残しています。

大正 11 年、今治港は四国初の開港場（国際貿易港）に指定されました。戦後の変動期には、港も一時衰退しましたが、昭和 26 年重要港湾の指定を受け、今治港の安全宣言が告示され開港場（かいこうば）今治港は再び動きだしました。港は今年開港 90 周年を迎えます。

今治港は背後に紡績、タオル、織物、縫製品等の繊維産業、造船業やその関連産業の発達した工業地帯を有するため、原材料及び製品を中継する港として発展しました。また瀬戸内海国立公園を擁する観光港として華やかな脚光を浴びました。しかし時を経て、航路の縮小により機能転換を余儀なくされている今治港は、中心市街地の一端を担う重要な場所でありながら、衰退が著しいものとなっております。

2009 年 3 月、今治市は都市再生の方向性をテーマとした「みなと再生事業基本計画策定プロポーザル」を行い、A・N・K 共同企業体が最優秀事業提案者に選ばれました。この案は港の機能再編に最大限のフレキシビリティを与えつつ、「パブリックコンストラクション」という枠組みによって市民や学生の参加を呼びかけるというものです。

本ワークショップでは、「パブリックコンストラクション」の一環として、今治市出身の学生が、今治港のポテンシャルの理解（地元学）を行い、市民とともにみなと・海の駅の未来を考えます。

昨年のワークを踏まえ今年は「しまなみ浪漫航路に点在する『海』目線の資源の発掘」「海の駅のハード」について考えます。

## ■ 学生 WS の内容

- ・ 日 時： 8 月 23 日(金)～25 日(日) 3 日間
- ・ 場 所： 愛媛県今治市 港湾ビル 4 F
- ・ 主 催： 今治市中心市街地再生協議会 みなと部会
- ・ 講 師： 神庭慎次 (studio-L)

## ■ WS のスケジュール (イメージ)

### < 1 日目 >

10:00-10:30	開会式 オリエンテーション
10:30-17:30	調査 (伯方・尾道・宮窪)
17:20-18:20	ワーク 1 意見交換・調査方針決定
18:30	懇親会

### < 2 日目 >

10:00-12:00	昨日の調査まとめ
13:00-16:00	海の駅ハードについて話し合い
16:00-19:00	ワーク 2

### < 3 日目 >

10:00-16:00	案の作成・再度調査
16:00-17:00	発表
17:00-17:30	閉会式

## ■海の駅 WS のテーマ

### 1) しまなみ浪漫航路の観光情報調査地点

1. 宮窪港周辺
2. 伯方港周辺
3. 井口港周辺
4. 大久野島
5. 三原市
6. 尾道

『海』目線とは何か？を島々に点在する施設を回りキーワードを抽出する。

### 見学予定施設

- 水軍博物館（宮窪）
- 伯方ふるさと歴史公園（伯方）
- 井口港待合所・大山祇神社（大三島）

これらを参加者で回り、瀬戸内・海に関するキーワード、海目線の調査に関する事柄を抽出



どんな写真で【しまなみ浪漫航路】を紹介するのか？

kinfork的なアプローチはどのようなものだろう



## 2) 海の駅のハード運営を考える

24日(土) 13:00~に関係者の方に集ってもらい海の駅のハード・運営についてワークを行う。それを最終日までにとめる



昔の内港は渡海船があり整然としていた。



## 村上水軍博物館

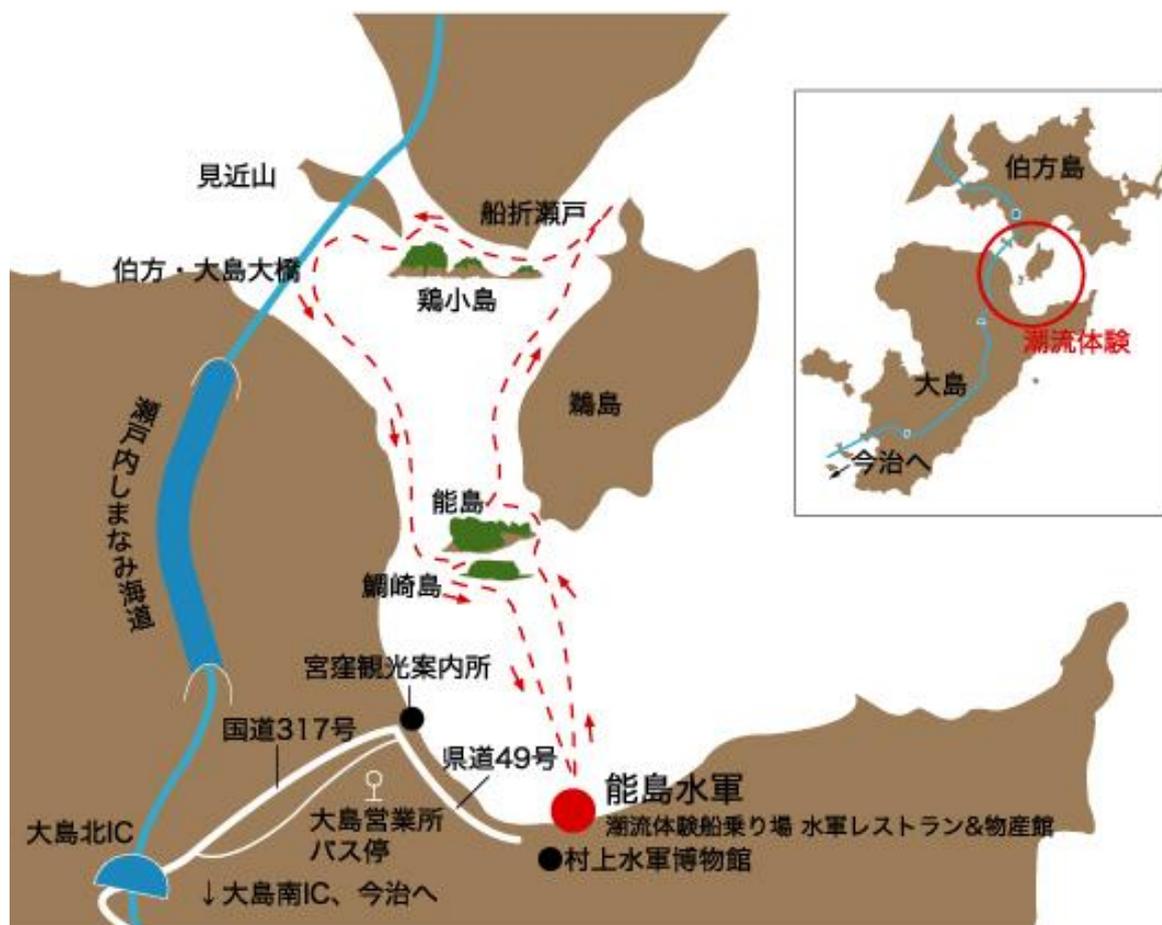
村上氏は、南北朝から戦国時代にかけて瀬戸内海で活躍した一族である。俗に三島村上氏と呼ばれる、能島・来島・因島の三家からなり、互いに強い同族意識を持っていた。

戦国時代になると、村上氏は、その強力な海の武力を背景に、瀬戸内海の広い地域を支配し、国内の軍事・政治や海運の動向をも左右した。この後、来島城を本拠とする来島村上氏は早くから守護大名河野氏と結びつき、因島村上氏は大内氏のち毛利氏の有力な水軍となった。そして、現在の宮窪に本拠を構えた能島村上氏は3氏の中でもっとも独立性が高く、村上武吉は、どの大名にも臣従せず、独自の姿勢を貫いた。

武吉の時代に全盛を謳歌する能島村上氏は、西は九州から東は塩飽諸島に至る海上交通を掌握していた。戦時には、小早船を巧みに操り、火薬を用いた戦闘を得意とした。その一方で、平時には瀬戸内海の水先案内、海上警固、海上運輸など、海の安全や交易・流通を担う重要な役割も果たしたのである。



### ○潮流体験



入館料 300円 潮流体験 1000円

## 伯方ふるさと歴史公園

伯方港や燧灘を望む高台にある伯方ふるさと歴史公園は、かつて存在したとされる木浦城（きのうらじょう）の居館などを想像的に復元しています。

資料館には、伯方島から出土した土器などの考古資料のほか、塩田や海運業など島の暮らしを物語る歴史民俗資料を展示しています。

中世前期に築城されたとされる木浦城の居館・城門・望楼等を復元するとともに、平成元年にこの高台

（山頂）で発見された岩ヶ峰古墳を保存し、ふるさと歴史公園として整備しました。



### 木浦城

十二世紀から十三世紀にかけて瀬戸内海の海上権を掌握していた紀氏の末裔である紀六郎太郎が城主であったとされ、伊予の豪族・河野通信の家人だった。

承久三年（1221年）、承久の乱に際して主家の河野通信は上皇方に組し、高縄城に拠って鎌倉幕府の追討軍に抵抗したが、宇野頼恒に捕らえられて所領の殆どを没収された。この時、六郎太郎は木浦城で鎌倉幕府の軍勢を迎撃したが、衆寡敵せず一族は滅亡したという。

戦国期には村上水軍で有名な村上氏の持城となった。